

秋田の土地改良

CONTENT 1

2014年 新年挨拶

CONTENT 2

平成26年度 農林水産予算概算決定の概要

2014.1
新年号

新年号平成26年1月15日

新年のごあいさつ



秋田県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット秋田)

会長 **高貝 久遠**

明けましておめでとうございます。

会員並びに関係の皆様には、ご家族ともども、健やかに輝かしい平成26年の新春を迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。また、平素から農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に、特段のご理解とご協力を頂いておりますことに、深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、数年続きの天候異変が、冬の豪雪、桜の開花が遅れた春、長引いた梅雨、残暑が厳しかった秋をもたらしましたが、特に8月上旬には、仙北市で「予測困難で局所的・突発的な豪雨」による土石流災害が発生し、6名の尊い命が失われました。心よりお悔やみ申し上げます。この豪雨は、鹿角・大館地区等におきましても、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしております。早急な復旧と、一日でも早い平穏な生活が戻りますことを、お祈り申しあげます。

さて、私たちの祖先は、厳しい自然条件と闘いながら、荒涼とした山野を切り拓いて疏水し、洪水で出来た低湿地を乾土して農耕を営み、加えて、地形や気象による宿命を克服しながら、今日の秋田県農業の基盤を築いてきたもので、その足跡こそ、本県農業・農村の貴重な歴史であり、先人の血と汗の努力に対して、心から敬意を表するものであります。

目次

CONTENTS

新年挨拶	2	農業用施設賠償責任保険・団体傷害保険制度	8
・ 本会会長 高貝久遠	2	平成25年度土地改良関係団体役職員講習会	9
・ 秋田県知事 佐竹敬久	4	大仙市西仙北土地改良区(50周年)、事業竣工式	10
・ 秋田県議会議長 能登祐一	5	農業農村整備フェア	10
平成26年度農林水産予算概算決定の概要	6	平成25年秋の叙勲受章者	11
農業農村整備の集い(全国水土里ネット)	7	連合会日誌、会員だより、編集後記	11
農林水産大臣賞現地視察【大仙市協和小種土地改良区】	7	2013子ども絵画展入選作品	12
平成25年度秋田県土地改良事業推進大会	8	謹賀新年(役職員新年あいさつ)	12

しかし、本県農業・農村が今後とも持続的に発展し、国民の食の安全、安心を担っていくためには、先人たちから受け継いだこれら優良農地や農業水利施設の整備を、継続的かつ安定的に実施することが不可欠であり、先の政権政党によって大幅減額された農業農村整備関係予算の復活が実感できる規模を、継続して確保する必要があります。

また、越年したT P P交渉に関しましては、現政権に対し、関係国が要求する農産品5項目の関税撤廃は、日本農業の崩壊に繋がるという危機感と、国民との極めて重要な約束である国会決議を守るという責任感をもって、交渉の場に臨む姿を督責します。

さらに、減反廃止を打ち出した「農林水産業・地域の活力創造プラン」につきましても、これまでの生産調整に協力し、政策の大転換で一番困惑している農家に、その必要性を丁寧に説明し、理解を得ることが急務であり、高齢化が進む農業の現場に、若い力を呼び込む政策体系への熟慮した移行こそが、今後の重要課題と捉まえるべきです。

本会としましては、会員各位、全国の水土里ネットの仲間との結束力により、昨年暮れに閣議決定されました来年度当初予算政府原案の満額成立に傾注して参ることは無論、T P P問題、農政大転換問題に関しましては、県内、国内各種団体との連携により、的確に対処して参りたいと存じますので、会員並びに関係皆様の格段のご理解、ご協力をお願いします。

新しい年の幕開けに際し、皆様に親しまれ、信頼される水土里ネット秋田を念頭に、技術力・指導力の一層の向上と、組織基盤の更なる強化に努める所存であります。各水土里ネット、各市町村の会員皆様を始め、関係各位におかれましては、本会の運営等に対しまして、ますますの、ご支援、ご協力を下さいますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念して、新年のご挨拶と致します。

野山の花

正月の花（門松）

秋田市の市民講座（門松作り）に参加して作った花器・花材を利用して、野山から採ったユズリハ・ガマズミ等を加えて生けてみました。

門松は、正月の家々の門前に立てるもので、松は、昔から常に緑であり、おめでたい木とされており、鎌倉時代以後になって、松に竹を加えて門松とされるようになったとされています。

山で見つけた貴重なユズリハは、親が子を育てて家が代々続いていくように見立てて縁起物とされています。 （広報・渉外班◆井島）



年頭のごあいさつ



秋田県知事

佐竹 敬久

新年明けましておめでとうございます。

水土里ネット会員の皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国学力・学習状況調査結果において、小中学生の学力が連続で全国トップクラスとなったほか、新県立美術館のグランドオープンなど明るい話題があった一方、8月、9月の大雨や土砂災害など、大きな災害のあった年でもありました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げるとともに、県としても引き続き災害復旧や再生産に向けた取組を支援してまいります。

さて、昨年は米政策の見直しなど、国の農政において大きな変革があり、年末には、今後の農政の方向性を示す「農林水産業・地域の活力創造プラン」が決定されました。

このプランは、10年間で農業所得を倍増させるという目標の実現に向け、米の生産調整や経営所得安定対策の見直しのほか、農地中間管理機構を通じた農地の集約化や日本型直接支払制度の創設など、農業・農村の基本政策全般を大きく転換する内容となっております。

県としましても、農家をはじめ県民の皆様から幅広くご意見を伺いながら、国の政策転換による影響を十分に分析し、国に対し積極的に提言を行うほか、県独自の施策・事業を構築してまいりたいと考えております。

本県農業が情勢の変化に対応しながら持続的に発展していくためには、経営の規模拡大や複合化・多角化を進め、農業の体質強化を図っていくことが必要であります。このため、現在策定を進めている「第2期ふるさと秋田元気創造プラン（仮称）」においても、生産性の向上やブランド化・6次産業化の推進による付加価値の向上などを柱に、競争力強化に向けた取組を重点的に推進してまいります。

また、農業農村整備におきましては、競争力のある農業の確立に不可欠な水田の大区画化・汎用化と併せて、担い手への農地集積を一体的に進めるほ場整備を着実に推進していくとともに、老朽化した農業水利施設の長寿命化やため池の耐震化などの防災・減災対策を推進し、災害に強い農村社会の形成を図ってまいります。

水土里ネットには、ふるさと秋田の大切な社会基盤である農地・農業用水等の地域資源の管理や、農村における多面的機能の発揮などの取り組みに積極的に貢献していただいております。今後とも、農業農村整備の推進はもとより、農業の持続的な発展に重要な役割を果たしていただくことをご期待申し上げます。

結びに、新しい年が水土里ネット会員の皆様にとって希望に満ちあふれた飛躍の年でありますようご祈念申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ



秋田県議会議長
能登 祐一

新年おめでとうございます。

水土里ネット会員並びに関係の皆様が、輝かしい新春を健やかに迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

皆様には、日頃から農業用排水施設の整備・管理や水田等の農地整備を通じ、本県農業・農村の振興と活性化に多大なるご貢献をいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年は、環太平洋経済連携協定、いわゆるTPP交渉への参加や、主食米の生産調整廃止の決定など、農業問題で大きな動きがありました。

私ども県議会では、3月にTPP交渉参加表明に対し、農林水産物の重要5品目を関税撤廃対象から除外することなど、国益を断固として守り抜くことを決議するとともに、8月には関税維持をはじめ、国益にかなわない場合は交渉から即時撤退するよう、強く要望する意見書を国に対して提出いたしました。

また、コメの生産調整廃止につきましては、取り組み次第では米の過剰基調が増幅し、米価の下落や乱高下が懸念されることから、稲作経営の安定に向け、助成が拡充された飼料米等に取り組みやすい環境を整えるなど、米の需要安定に向けた対策が求められております。

このように、農業を取り巻く環境の変化が著しい中であって、農地や農業施設等の地域資源は、農業者の高齢化や担い手不足、農業を支える地域共同体組織の機能低下などによって、その適切な維持管理が困難な状況となってきております。

農業施設の長寿命化と防災対策をはじめ、集落営農の推進や農業生産法人の育成、統合整備問題など、地域住民の期待に応えるための多くの課題を抱えていることから、皆様が担われる責務は、ますます重要で困難を伴うものとなってまいります。

県議会といたしましては、皆様の円滑な事業遂行のため、関係機関への働きかけはもとより、急激な変化に対応した県独自の施策の展開などに今後とも努力してまいりますので、どうか、皆様におかれましては本県農業のさらなる進展に向け、これまで培ってこられた英知を遺憾なく発揮され、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本年が水土里ネット会員並びに関係の皆様にとりまして、よりよい飛躍の年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

2014年度 予算案が 閣議決定される

平成26年度農林水産予算案決定 農政大転換へ2.3兆円

政府は去る12月24日、2014年度予算案を閣議決定し、農林水産分野の予算案は2013年度予算に比べ1.3%増の2兆3,267億円となった。農地の大規模化を進め、コメなどの価格競争力をつける政策に軸足を置いたもので予算増額は2年連続。なお、2013年度の補正予算で農林水産分野はすでに4,310億円を確保しており、合算すると2兆7,578億円となる。

最大の特徴は点在する農地をまとめて借りて再生し、大規模農家に貸し出す農地中間管理機構（農地バンク）の創設。活動費として305億円（今年度補正予算で400億円）を計上し、水田を大区画化する工事費用も含めると合計で1,000億円を超える。2014年度に全国で15万ヘクタールの田畑を拡大し、農業のコスト競争力を高めるねらい。

また、農地の保全に協力する集落を対象とした「日本型直接支払制度」には483億円を盛り込んだ。自民党が政権公約に盛り込んだもので、用水路などの管理を支援する制度と農業の多面的機能の発揮のための地域活動を支援する制度で構成されている。

平成26年度農林水産予算の骨子

総括表

(単位：億円)

区 分	25年度 予算額	26年度 概算決定額 A	(25年度補正追加額)	
			補正額 B	A+B
農林水産予算総額 (対前年度比)	22,976 —	23,267 101.3%	4,310 —	27,578 120.0%
1. 公共事業費 (対前年度比)	6,506 —	6,578 101.1%	1,728 —	8,306 127.7%
一般公共事業費 (対前年度比)	6,314 —	6,386 101.1%	1,349 —	7,734 122.5%
災害復旧等事業費 (対前年度比)	193 —	193 100.0%	379 —	572 297.1%
2. 非公共事業費 (対前年度比)	16,469 —	16,689 101.3%	2,582 —	19,272 117.0%

公共事業費一覧

(単位：億円)

区 分	25年度 予算額	26年度 概算決定額 A	(25年度補正追加額)	
			補正額 B	A+B
農業農村整備 (対前年度比)	2,627 —	2,689 102.4%	800 —	3,489 132.8%
林 野 公 共 (対前年度比)	1,796 —	1,813 100.9%	439 —	2,252 125.4%
治 山 (対前年度比)	611 —	616 100.7%	165 —	781 127.7%
森 林 整 備 (対前年度比)	1,185 —	1,197 101.0%	274 —	1,471 124.2%
水産基盤整備 (対前年度比)	721 —	721 100.0%	110 —	831 115.2%
海 岸 (対前年度比)	40 —	40 98.8%	— —	40 98.8%
農山漁村地域整備交付金 (対前年度比)	1,128 —	1,122 99.5%	— —	1,122 99.5%
一般公共事業費計	6,314 —	6,386 101.1%	1,349 —	7,734 122.5%
災害復旧等	193 —	193 100.0%	379 —	572 297.1%
公共事業費計	6,506 —	6,578 101.1%	1,728 —	8,306 127.7%

(注) 1. 金額は関係ベース。 2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。 3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。 4. 25年度予算額は、東日本大震災復興特別会計への繰入れ分(津波対策33億円)を含む。

平成26年度農林水産予算の主な重点事項

総額 2兆3,267億円 (2兆2,976億円)

(※) 各事項の下端()内は、平成25年度当初予算額

■担い手への農地集積・集約化、担い手の育成等による構造改革の推進

- (1)担い手への農地集積・集約化 **【補正予算】**
- ①農地中間管理機構による集積・集約化活動 **400億円**
【新規】
・担い手への農地集積・集約化等を加速化するため、農地中間管理機構の事業運営、農地の出し手に対する協力金の交付等を支援 **305億円** (—)
- ②農地の大区画化等の推進<公共> **【補正予算】**
・農地中間管理機構による農地の借受け・貸付けとの連携等により、農地の大区画化・汎用化等を推進 **450億円** (1,064億円 (1,035億円))
- ③耕作放棄地再生利用緊急対策交付金 **【補正予算】**
・荒廃した耕作放棄地を再生利用するための雑草・雑木除去や土づくり等の取組を支援 **2億円** (所要額 19億円 (19億円))

■新たな経営所得安定対策

- ①畑作物の直接支払交付金 **【補正予算】**
・麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいし等の畑作物を生産する農業者の経営安定のための交付金の交付 **2,093億円** (所要額 2,517億円 (2,123億円))
- ②水田活用の直接支払交付金 **【補正予算】**
・飼料用米、麦、大豆等の戦略作物の本作化を図るとともに、産地交付金により、多収性専用品種の導入、加工用米の複数年契約、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するための取組を支援 **282億円** (2,770億円 (2,517億円)のうち産地交付金 804億円 (539億円))
- ③水田フル活用実践緊急対策 **【補正予算】**
・水田における低コスト生産のための高効率機械の導入や施設の機能向上、飼料用米を利用・保管するための機械の導入を支援 **806億円** (所要額 1,613億円)
- ④米の直接支払交付金 **【補正予算】**
・米を生産する農業者の経営安定のための交付金の交付 **26億円** (29年産までの時限装置(30年産から廃止))

■強い農林水産業のための基盤づくり

- (1)農林水産業の基盤整備(競争力強化・国土強靱化) **【補正予算】**
- ①農業農村整備事業<公共> **800億円**
・農地集積の加速化、農業の高付加価値化のための農地の大区画化・汎用化や地かんがいがい等の整備、老朽化した農業水利施設の長寿命化・耐震化対策等を推進 **2,689億円** (2,627億円)
- ②森林整備事業<公共> **【補正予算】**
・国産材の安定供給体制を構築するとともに、地球温暖化を防止するための間伐等の森林施業や路網の整備等を推進 **274億円** (1,197億円)
- ③治山事業<公共> **【補正予算】**
・地震・集中豪雨等に対する山地防災力の強化のため、荒廃山地の復旧対策、津波に強い海岸防災林の整備等を推進 **165億円** (616億円)
- ④水産基盤整備事業<公共> **【補正予算】**
・流通拠点漁港の衛生管理対策や水産資源回復対策、老朽化した漁港施設の長寿命化・耐震化対策等を推進 **110億円** (721億円)
- ⑤農山漁村地域整備交付金<公共> **【補正予算】**
・地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援 **112億円** (1,122億円)

■日本型直接支払の創設

- ①多面的機能支払交付金【新規】 **483億円**
・農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付 **800億円** (—)
- ②中山間地域等直接支払交付金 **285億円**
・中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付 **285億円** (285億円)
- ③環境保全型農業直接支援対策 **26億円**
・化学肥料及び農薬の5割低減とセットで、地球温暖化防止等に効果の高い営農活動を行う農業者等を支援 **26億円** (26億円)

「農業農村整備の集い」開催される!

予算復活に向けて



全国国土里ネット主催の「農業農村整備の集い」が11月26日、東京都千代田区平河町の砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」で開催された。

平成22年度に大幅に削減された農業農村整備予算は、平成25年度には平成24年度の補正予算とあわせ、元の姿に復活しつつあるが、この流れを止めることなく、平成26年度当初予算においても、その復活が実感できる規模を確保する必要があり、農業・農村の重要性と、それを支える農業農村整備の役割を広く国民にアピールし、新たな農政の発展について認識と決意の高揚を図ろうと、昨年が続く開催となった。

当日は、全国国土里ネット野中会長の挨拶、林農林水産大臣の祝辞に続き、情勢報告、事例発表が行われ、終わりに農業農村整備予算の復活と担い手への面的集積に不可欠な農地整備や国土強靱化の考えに即した防災・減災対策の推進を図ることなどを盛り込んだ要請書が満場一致で採択された。

本県からは、高員会長を始めとする国土里ネット秋田の役職員、国営事業を実施している各土地改良区理事長などが参加。集い終了後は、本県選出の国会議員への要請活動を行い、農業農村整備予算の復活と、各種施策の着実な推進を強く要望した。



農林水産大臣賞の現地視察 ～農業農村整備優良地区コンクール(全国国土里ネット)～

－ 選考委員が土地改良区役職員と意見交換 －

11月19日、平成25年度農業農村整備優良地区コンクール選定審査会(全土連主催)の委員などが、昨年度に同コンクールで農林水産大臣賞を受賞した大仙市協和小種土地改良区を訪れ、受賞後の取り組みや活動の変化などに関して意見交換を行った。

今回、小種地区を訪れたのは、佐藤洋平委員(東京大学名誉教授・中山間地域フォーラム会長)と芳見弘一委員(全国地方新聞社連合会副会長)、全国国土里ネットの担当者など4名。現地では、農事組合法人「たねっこ」のライスセンターと野菜加工センターを視察したほか、同土地改良区事務所で意見交換を行った。

土地改良区に加藤末道理事長は、「ほ場整備事業を契機に、改良区と法人が連携して地域農業の活性化に取り組んできた結果が受賞に繋がった。TPP問題や減反政策の見直しなど、先行きの見えない状況が続くが、これまで以上に法人と連携を図りながら、直面する課題を乗り越えていきたいと思う」と、今後の地域農業の取り組みに対し決意を新たにしていた。

平成25年度

秋田県土地改良事業推進大会

農業農村整備予算概算要求額の満額確保に向けて



11月1日(金)、第136回秋田県種苗交換会の協賛行事として、本会主催による「平成25年度秋田県土地改良事業推進大会」が、仙北市民会館で会員及び関係者など約1,150名が参加し、来賓として難波和聡農林水産部次長(佐竹知事代理)、門脇光浩仙北市長、中泉松司参議院議員ほか関係者各位がご臨席のもと開催された。

大会では、高貝会長が「本年度予算は、大幅に削減される以前の水準を超える額が確保された。来年度予算においても、概算要求額が満額確保されるよう、一段のご支援をお願いしたい」などと挨拶した。

次に、土地改良功労並びに功績者表彰、21世紀土地改良区創造運動表彰、来賓祝辞の後、県当局による「秋田県農業農村整備事業の現状報告」に続いて、「TPP交渉においては、農業の重要5項目の関税を維持し、国益を最大化すること」などの大会決議を満場一致で採択し、閉会した。

なお、今回表彰された、団体、個人は、次のとおり。

土地改良功労表彰

●知事表彰

【団体】

田代町土地改良区(理事長 斉藤 一)

秋田県仙北南部土地改良区(理事長 畑山傳一)

【個人】

金 慶一(河辺土地改良区理事長)

佐藤 順子(秋田県能代地区土地改良区総務課長)

鈴木ノリ子(大仙市協和土地改良区会計主任)

土地改良功績者表彰

●会長表彰

市川 一(山本郡藤里町藤琴土地改良区理事長)

伊藤作一郎(仁井田堰土地改良区理事長)

佐々木紘一(内越土地改良区理事長)

進藤 峰晴(大仙市大曲土地改良区事務局長)

上田 晃(前大森土地改良区理事長：故人)

21世紀土地改良区創造運動表彰

●知事表彰

男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区(水土里ネット一ノ目潟)

理事長 戸 嶋 幸 三

●奨励賞

北秋田市綴子土地改良区(水土里ネット綴子)

理事長 米 澤 一



農業用施設賠償責任保険・団体傷害保険制度のご案内

みなさまが、安心して『施設維持および管理活動』に従事していただくための平成26年度団体保険制度をご案内いたします。

安心

安心の補償

●農業用施設賠償責任保険 <相手への賠償>

- ◆土地改良区等が所有・使用・管理する施設等が原因となる第三者への賠償事故による損害を補償します。
- ◆土地改良区等が実施する草刈り・清掃などの施設維持・管理活動中に作業員のミスによる第三者への賠償事故による損害を補償します。

※「賠償事故」とは、法律上の損害賠償責任が発生した事故のこと。

●団体傷害保険 <ご本人の賠償>

- ◆土地改良区等が実施する草刈り・清掃・施設の保守管理などの施設維持・管理活動中に偶然な事故でケガをした場合、保険金をお支払いします。

※他の保険等とは関係なくお支払いします。健康保険、生命保険、政府労災など他の保険や、加害者から受ける損害賠償金などとは関係なくお支払いします。

平成25年度 土地改良関係団体役員講習会

県内9会場で開催される



本講習会は、国並びに県の指導を頂き、本県土地改良関係役員職員の資質向上の場として、半世紀以上に渡り受け継がれてきた事業であり、特に近年は、未収賦課金の回収等、土地改良区運営に関する問題の多様化・複雑化が顕著となっており、会員一層の研鑽の場として、或いは、会員相互の情報交換の場として継続されている。

今年度は、11月7日平鹿支部を皮切りに、12月6日までの約1ヶ月間に渡り県内9会場で開催され、延べ827名の関係者が参加し盛会に終了することができた。

全県共通テーマとして「土地改良区等の適切な運営」、サブタイトルを“不祥事の未然防止を図るために”と題して、新聞報道等による最近の不祥事の事例を基に、秋田県農林水産部農地整備課からの講義。その他にも各地域の独自性を取り入れ、様々な分野からの講演もあった。

各会場では、農政改革に対する対応や今後の地域振興活動の参考にしようと参加者は熱心に聴き入っていた。今年度の各会場での実施内容は次のとおり。

各支部の日程及び主な個別テーマ(敬称略)

平鹿(役員)	11月7日	カンボジア王国の農業と土地改良の事情	東北農政局西奥羽土地改良調査管理事務所 所長 長井 薫
仙北(役員)	11月13日 ~14日	土地改良区会計の管理	大仙市 代表監査委員 福原 堅悦
由利(役員)	11月15日	白瀬南極探検隊とその時代	南極探検隊白瀬轟頭彰会 副会長 佐藤 忠悦
秋田(役員)	11月19日	TPPと新しい農業政策	秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科 教授 長濱 健一郎
鹿角・大館・北秋田(役員)	11月21日 ~22日	小さな地域活性化の試み	くまのたいら企画 代表 大穂 耕一郎
山本(役員)	11月22日	滞納処分	木元法律事務所 弁護士 木元 慎一
雄勝(役員)	11月28日	羽後町特産「そば」の地産地消(農家レストラン)の取り組み	彦三 店主 猪岡 専一
仙北(職員)	11月29日	今後の土地改良事業の進め方	東北農政局田沢二期農業水利事業所 所長 照井 敏弘
秋田(職員)	12月5日 ~6日	水稻新品種の特性と栽培上の留意点等	秋田県農業試験場作物部作物栽培担当 上席研究員 佐野 広伸

納得 納得のプラン

●納得その1

◆農業用施設賠償責任保険の保険料の計算は簡単！延長距離に720円を掛けるだけ。

●納得その2

◆役員・職員以外の方に

- ①土地改良区の夫役等として、組合員による草刈・泥上げ等に従事する方への傷害保険
- ②期間雇用の方への傷害保険

◆役員・職員の方に

- ③役員・職員の方に限定した傷害保険
- 各プランとも新たなプランを設定し、豊富なコースの中からお選びいただけます。

●納得その3

◆傷害保険は、団体加入のスケールメリットとして割引15%を適用しています。

【問合せ先】 総務企画部 広報・渉外班 TEL.018-888-2742

引受保険会社：三井住友海上 取扱幹事代理店：東北リスクマネジメント

【更新手続き】 2月末日までとなっておりますので、後日、加入依頼書を送付いたします。

※上記は、農業用施設賠償責任保険と団体傷害保険の特徴を説明したものです。詳しくは商品パンフレットをご覧ください。また、農業用施設賠償は昨年と同様ですが、延長距離に変更がありましたら別途見積り致しますのでご連絡下さい。

大仙市西仙北土地改良区 設立50周年記念式典

11月17日(日)、大仙市西仙北土地改良区の設立50周年記念式典が、大仙市(西仙北ぬく森温泉ユメリア)で、県、市、土地改良区の関係者など約60名が出席して挙行された。

式典は、小山田理事長の式辞、元役員等への表彰状贈呈、大仙市長(代理：老松副市長)、県仙北地域振興局長(代理：足達農林部長)、小松県議会議員、本会高貝会長等の来賓祝辞と続いた。

同土地改良区は、昭和38年、当時の西仙北町強首地区の4土地改良区が新設合併して設立され、以来、地区の主水源である「強首揚水機」の改修整備や長寿命化対策事業を実施してきた。最近では、「県営農地集積加速化基盤整備事業」の施行により、地区の大半が大区画化、汎用農地化されており、大型機械等を利用した効率的で、しかも多角的な営農が展開されている。農業情勢が大きな転換期を迎えた中で、今後も地域の先導役としての安定的な業務運営が期待される。

県営「皆別当地区」農地集積加速化基盤整備事業 竣工式

11月24日(日)、平成20年度から5年間の工期で施行された、県営「皆別当地区」農地集積加速化基盤整備事業の竣工式が、大仙市(西仙北ぬく森温泉ユメリア)で、県、市、土地改良区の関係者など約70名が出席して行われた。

式典は、後藤秋田県西仙北土地改良区理事長の式辞、足達仙北地域振興農林部長の挨拶、工藤農村整備第一課長の事業経過報告に続き、本会高貝会長などが来賓祝辞を述べた。

同地区は、昭和30年に団体営事業としての整備済みの地区であったが、区画、農道とも狭小で、農業機械の作業効率が極めて低く、さらに、施設の経年劣化により、維持管理に多大な労力等を要する状況にあった。このため、本事業は、約8億円の事業費で、受益面積40.8ヘクタールの面整備、農道、暗渠排水工などが行われ、農地の大区画化、汎用化が推進され、さらに、高度経営体への加速的な面的集積が行われたことにより、高生産低コストの農業経営の展開が見込まれている。



農業農村整備フェア

10月31日～11月6日、「第136回秋田県種苗交換会」が仙北市を会場に行われた。

今年も参考展示「農業農村整備フェア」を、秋田県・東北農政局の各事業所・NPO法人秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会と連携して開催。

毎年恒例の写真入りカレンダーやポップコーン等の効果もあり、期間中約5,000人の来訪となった。各事業所の概要や事業の写真パネル、本会の小水力発電や県の地下かんがいシステムの模型等の展示・説明などを通じて、農業・農村に関心と理解を持つきっかけを作ることができたのではないかなと思う。

来訪者に対するアンケート調査からも、農業農村整備事業に対する理解度は71%となり、昨年よりも高い結果となった。この催しは、普段接点の少ない一般の方々とも直接ふれ合うことが出来る良い機会となっており、今後も効果的な広報活動を目指していきたい。

平成25年秋の叙勲 受章者発表

平成25年秋の叙勲受章者が、去る11月3日に発表されました。本会の関係者として次の方々が受章されました。

受章された皆さまは、長年にわたり土地改良区理事長や地方議員として、農業農村整備事業の推進や土地改良区運営に尽力され、広く地域農業の振興と発展、地区の活性化に貢献していることが認められての受章となりました。誠にありがとうございます。

土地改良事業功労

❖旭日双光章

後藤 清 一

・平鹿町土地改良区理事長



❖旭日単光章

加藤 正 孝

・前大仙市協和小種土地改良区理事長



地方自治功労

❖旭日小綬章

佐々木 紘 一

・内越土地改良区
理事長
・元由利本荘市議



❖旭日小綬章

仲村 力 夫

・元大仙市大曲
土地改良区理事長
・元大曲市議会議長



❖旭日双光章

佐藤 實

・由利本荘市矢島町
土地改良区理事長
・元由利本荘市議



連 合 会 日 誌

11月13日	平成25年度秋田県農林水産フォーラム	秋田市
11月22日	全国農業集落排水事業推進協議会における要望活動	東京都「農林水産省」他
11月25日	東北・北海道土地連絡協議会要請活動（～26日）	東京都「財務省、農林水産省」他
11月29日	全国土地改良施設管理事業推進協議会第17回通常総会	東京都
12月3日	T P P 決議の実現を求める国民集会・デモ	東京都
12月12日	農林水産部・地域の活力創造プラン等の説明会	秋田市「県庁第二庁舎」
12月12日	地域政策に関する市町村等担当者会議 ～地方キャラバン～	秋田市「県庁第二庁舎」
12月13日	平成25年度換地計画実務研修	秋田市
12月25日	第5回秋田県土地改良区統合整備検討委員会	秋田市
12月25日	都道府県土地改良事業団体連合会長等会議	東京都
12月25日	第5回監事会・第3回理事会	本会「会議室」
1月10日	第2回秋田市農業大賞実行委員会総会	秋田市
1月14日	第20回ふるさと水と土基金全国研修会（～15日）	東京都
..... 今後の行事予定		
1月23日	平成25年度換地処分促進指導全国会議	東京都
1月24日	秋田県土地改良事業団体職員会第2回役員会	秋田市
2月6日	2014みやぎの農業農村復旧復興シンポジウム（～7日）	仙台市
2月12日	東北・北海道土地連絡協議会第3回事務責任者会議	仙台市
2月13日	平成25年度土地改良区合併推進リーダー育成研修会（東京会場）（～14日）	東京都

会員だより

新理事長就任のお知らせ

次の方が新たに理事長に就任されました。

○能代市種土地改良区（H25.11.26）

理事長 茂呂 誠

編 集 後 記

あけましておめでとうございます。今年は「午年」ということで、昨年以上に走り続けて飛躍の年にしていきたいですね。私は今年度、「Akitaふるさと活力人養成セミナー」に参加し、様々な講習を受けてきました。そして先日、湯沢市の松岡地区でフィールドワークを行い、現在グループで話し合いながら実施計画を立てているところです。このセミナーを通して、長年呪文の様に繰り返されてきた「過疎化」や「少子化」といった秋田県における深刻な社会問題に対し、現状を野放しにせず、打開策を考えていかなければならないと思うようになりました。私たちはコーディネーターとして、それら地域の「活性化を目標とする」…と云えば聞こえはいいのですが、本当の意味では「持続可能な地域を目指す」ことを第一の目的として、まずは危機感を持ち、バックキャストから地域の未来について考えていければと思っています。
(広報・渉外班◆寺山)

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2013 入選のお知らせ

全国から8,650点の応募があり、入賞19点、入選118点、地方団体賞60点が選ばれ、本県でも2名の児童・園児が受賞しました。

入選 作品名「私のふるさとのだいじな味」



藤原咲良（ふじわらさくら）さん
大仙市西仙北小学校 3年

夏になると「あさづけ」というおやつを作ります。お米を粉にして、フルーツの缶詰を混ぜた、冷たくて甘ずっぱいおやつです。昔からあるこのおやつの味を、大人になっても忘れずにたいです。

入選 作品名「たんぼのなかのスーパーこまち」



伊藤冬美香（いとうふみか）さん
仁井田幼稚園 6歳

田んぼの中のスーパーこまちを描きました。



会 長	高 貝 久 遠	常務理事	水 戸 憲 光	理 事	田 口 信 一	総括監事	藤 井 弘 道
副 会 長	正 木 正 一	理 事	長 谷 部 誠	"	大 坂 芳 市	監 事	小 川 善 信
"	畠 山 清 俊	"	田 中 長	"	柴 田 康 二 郎	"	鈴 木 清
専務理事	清 野 弘 久	"	小 畑 元	"	松 田 知 己		外職員一同